

基礎力定着テスト特講Ⅱ 1

問 次の詩を読んで、問いに答えなさい。

ア 天を突く春榆の巨木群が a あつた
イ どの木もどの木も ャ 太くどつしりと b 立ち

① たくましく空に伸びていた
エ 堂々と胸を はって

② 北の大地に根をおろしていた

春榆の樹々の間に

柁屋根の校舎が c 横たわり

運動場には

③ チモシーの緑が d 揺れていた

「遙かに見ゆる北海の眼下に サロマ湖を見て
……」

④ ぼくたちはつばめの子みたいに
口を大きく開いて歌を e うたった
むせかえるような

⑤ 春榆の若葉の匂いだった

問 1 ①～⑤を文節に区切りなさい。

【25点】

- ① たくましく空に伸びていた
- ② 北の大地に根をおろしていた
- ③ チモシーの緑が揺れていた
- ④ ぼくたちはつばめの子みたいに
- ⑤ 春榆の若葉の匂いだった

問 2 a～eの主語をそれぞれ抜き出しなさい。

【25点】

a	()
b	()
c	()
d	()
e	()

問 3 ア～オの品詞名を書きなさい。

【25点】

ア	()	詞	イ	()	詞
ウ	()	詞	エ	()	詞
オ	()	詞			

問 4 この詩の形式は何か。

【5点】

ア	文語定型詩	イ	文語自由詩
ウ	口語定型詩	エ	口語自由詩
オ	散文詩		

問 5 この詩はいくつの連から成り立っているか。

【5点】

() 連

問 6 ① 4・5行目、② 11行目で用いられている

技法を、それぞれあとから選びなさい。

【10点】

①	()	②	()
ア	直喩	イ	隠喩
		ウ	擬人法

問 7 この詩の題名をあとから選びなさい。

【5点】

ア	北の大地に	イ	春榆の木
ウ	サロマ湖を見て	エ	若葉の歌

基礎力定着テスト特講Ⅱ 2

問 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

季節がめぐつてくると、①そのときどきの花が咲き、チヨウが舞い、鳥が歌う。当たり前のことのようにも思うけれど、人はそこに大自然の力、自然のふしぎを感じないではa いられない。とくに、寒い冬が次第に遠のいていって②ついに春がきたときはなおさらである。

ア なぜ 自然はこんなにうまく b めぐっているの だろうか？生物学者にとっては当然興味をそそられる問題だ。

今年は寒かつ A た から サクラの開花は かなりおくれたが、暖かい年にはふだんより早く花が咲く。イ だから、寒い、暖かいが開花の時期を決めることは確かである。

けれどサクラは、③冬の間から つぼみが ふくらんでくる。ウ その時期には まだ寒いから、つぼみのふくらみは 暖かさによるものではない。そもそも暖かくなってから つぼみを ふくらま B せ 始めたのでは間に合わない。

じつはサクラが 花の芽を作るのは、前年の夏である。④このときにもう、来年の花が 作ら C れは じめているのである。サクラの花は 暑い夏に 作られて、寒いときにふくらみ、暖かくなって c 開くのだ。その丹念な用意周到さ！

問 1 ①～③を文節に区切りなさい。 【12点】

- ① そのときどきの花が咲き
- ② ついに春がきたときは
- ③ 冬の間からつぼみがふくらんでくる

問 2 a、b、cの主語をそれぞれ抜き出さなさい。 【12点】

a () (b) ()

c () ()

問 3 ア～ウの品詞名を書きなさい。 【12点】

ア () 詞 (イ) 詞 ()

ウ () 詞 ()

問 4 A～Cと同じ種類のものをあとから一つずつ選びなさい。 【12点】

A ア 着いたところだ イ 壁に かけた 絵

ウ 澄んだ 青空 エ 昨日 買った パン

B ア やせる イ 来さ せる

ウ 乗せる エ 任 せる

C ア 足を踏 まれる イ 食べ られ ない

ウ 思い出 される エ 先輩が 来ら れる

問 5 次の空欄を埋めなさい。 【12点】

④「この」のような語を ()

という。これが出てきたら、 () を

見るとよい。ここでの答えは ()

である。

基礎力定着テスト特講Ⅱ 3

問 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

① 激しい雨が降りつづくなかで、乗っていた特急が停まった。これで三度目だなと私は思った。豪雨地帯Aだということもアある。1、この紀伊半島を走る紀勢線と私とは、不思議に相性が悪いBらしい。過去にも二度ほど不通になった②経験があった。

この日も見知らぬ駅に特急は臨時停車したままで、車内には土砂崩れイのために停車しているという車内放送が何度かa流れた。そのうち乗客たちに牛乳と菓子パンが配られ、2何時間かが過ぎ、復旧のみこみがないので臨時バスで輸送することが告げCられた。

そういえば、③山が崩れるほどの豪雨は、私の畑のある群馬県の上野村でも、何度か経験したことがある、と私は思いだしていた。道路が全く通行できなくなつて、路上でどうすることもできなくなった日もbあつた。3、同じような豪雨による土砂崩れでも、上野村で遭遇したときと、この紀勢線の場合とでは、私の受け取り方が面白いように違っていた。

汽車が豪雨で停まったウときは、そのことに対して私は不便を感じているのに、上野村での私は、雨が上がったあとの畑仕事の段取りなどを考えて、それはそれで結構c楽しんでさえたのである。

問 1 ①②③を単語に区切りなさい。【12点】

- ① 激しい雨が降りつづくなかで
- ② 経験があつた
- ③ 山が崩れるほどの豪雨は

問 2 aとcの主語をそれぞれ抜き出しなさい。

【12点】

- a ()
- b ()
- c ()

問 3 アとウの品詞名を書きなさい。【12点】

- ア () 詞 () イ () 詞 ()
- ウ () 詞 ()

問 4 AとCと同じ種類のものをあとから一つずつ選びなさい。【12点】

- A ア学校だ イ素直だ
- ウ澄んだ エ飛んだ

- B アかわいらしい イ愛らしい
- ウ来るらしい エあたらしい

- C ア足を踏まれる イ食べられない
- ウ思い出される エ先輩が来られる

問 5 空欄1と3に当てはまる語をあとから選びなさい。【12点】

- 1 () 2 ()
- 3 ()
- ア さらに イたとえば
- ウ ところが エが

基礎力定着テスト特講Ⅱ 4

問 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

人は食わずには①生きていけない。① 食べるためには、食べるものを作らなければならぬ。②狩猟民や採集民にしても、獲物や採集物を、調理もせずに食べるのはまれであろう。調理は、人間生活におけるもっとも基礎的な行動でaあることは疑いない。火がしばしば文明の象徴とされるのも、おそらくAそういう理由からであろう。

②、この調理という営みに、奇妙なことが起こっている。③独身の人たちに限らず、料理をbしない人が増えてきたというのは、正確な数字情報はもっていないけれども、コンビニやデパートの地下の食料品売り場、あるいは夜の居酒屋などの風景を見る限り、どうも確かな事実のようである。

他方で、テレビをdつければ、朝から晩おそくまで、料理番組やグルメ番組がずらっと並んでいる。ワイドショーがめじろ押しの「主婦」の時間帯には、料理番組がもとも多い。②、最近深夜十一時をeまわってから、それもたつぷり時間をとった番組が増えている。料理のレシピを伝えるというより、明らかにゲーム感覚のショーといった感じである。③、ふだんとても手に入らないような食材を使っている。視聴者があとで作るでfあることは計算に入っていない。

問 1 ①②③を単語に区切りなさい。【12点】

- ① 生きていけない
- ② 狩猟民や採集民にしても
- ③ 独身の人たちにかぎらず

問 2 a f の動詞の活用形をあとから選きなさい。【24点】

a ()	(b)	(c)	()
d ()	(e)	(f)	()
ア 未然形	イ 連用形	ウ 終止形	
エ 連体形	オ 仮定形	カ 命令形	

問 3 空欄1②3に当てはまる語をあとから選きなさい。【12点】

1 ()	(2)	(3)	()
ア さらに	イ そして		
ウ それに	エ が		

問 4 Aの指す一文の始めの五字を抜き出しなさい。【3点】

A () ()

問 5 ①「坊っちゃん」の作者名を漢字で書きなさい。また②その人物が書いた作品をあとから二つ選きなさい。【9点】

① () ()	()	
② () ()	()	
ア 羅生門	イ 一握の砂	
ウ こころ	エ 人間失格	
オ 三四郎	カ 暗夜行路	
キ 高瀬舟	ク 夜明け前	

基礎力定着テスト特講Ⅱ 5

問 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

動物たちには目があつて、あたりを見ている。われわれ人間も目があつて、あれこれのものをしている。①目の構造はきわめて複雑だ。そして、動物によって目の構造はまったくaちがう。

1、昆虫の複眼。昆虫の目は、われわれのと同じく、頭に二つついている。2、そのそれぞれは、何千という個眼からできている。

このような構造をした複眼で、ものはどのように見えるのか、昔からいろいろな議論があった。もっとも広くb信じられているのは、「モザイク説」である。3、昆虫の複眼は、②その何千という個眼に映る像によって、世界をモザイク状に見ている、というのである。

実際、昆虫の目を頭からcはずし、それをレンズにして写真をとる装置をつくり、それでもものを撮影してdみると、そのものは③ほんとうにモザイク状にうつる。2、これはものごとのごく一部にすぎない。目は単なるカメラではないからである。われわれ人間の目だって、網膜（カメラでいえばフィルムに相当する）に映った像は、上下さかさまになっている。これをわれわれがそのまま感じとっているとeすれば、われわれには世界がすべて上下倒立してf見えるはずである。

問1 ①～③の修飾する語を一文節で抜き出しなさい。 【12点】

- ① () ② () ③ ()

問2 a～fの動詞の活用形をあとから選びなさい。 【24点】

a ()	b ()	c ()
d ()	e ()	f ()
ア 未然形	イ 連用形	ウ 終止形
エ 連体形	オ 仮定形	カ 命令形

問3 空欄1～3に当てはまる語をあとから選びなさい。 【12点】

1 ()	2 ()	3 ()
ア けれど	イ たとえば	
ウ つまり	エ そのうえ	

問4 次の文節相互の関係をあとから選びなさい。 【12点】

- ① 目があつて、あたりを見て いる
- ② 目があつて、あたりを見て いる
- ③ 目があつて、あたりを見て いる
- ④ 目があつて、あたりを見て いる
- ① () ② () ③ () ④ ()

- ア 主述の関係 イ 修飾・被修飾の関係
- ウ 並立の関係 エ 補助の関係
- オ 接続・被接続の関係 カ 独立の関係

基礎力定着テスト特講Ⅱ 6

問 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

自転車店をa開業している加島のもとへ、永松と宮森が不意に訪れた。二人は登山の服装を身につけてやってb来た。

「難しいな。」

加島は言った。雪溪の下でc生きていることは難しいという意味だった。

「それは、こうして商売していて店をd空けることは難しいでしょうし、それに加島さんは、いま…。」

言いかけて止めた永松のことばに加島はむっとしたようにeふりむいて、

「いまだうしたっていうんだね。」

さすがに永松はそれには答えられずにいた。子供が生まれたばかりだから、①他人のことなんかどうでもいいだろうとf言え、それでおしまいである。永松孝作は清水村からの電話を受け取った時、加島重造をつれていくと答えていた。山に経験の深い加島が参加すると言っている。加島が行かないと嘘を言ったことになるし、永松自身、遭難救助には②全く自信がなかった。

「ア行ってやってくれませんか、加島さん。」

それまで黙っていた宮森は哀願するように言ったが、加島は修理のでき上がった自転車を表に引き出すと、③すぐ自分の自転車にまたがった。

問1 ①～③の修飾する語を一文節で抜き出しなさい。 【15点】

- ① () ② () ③ ()

問2 a～fの動詞の活用の種類をあとから選びなさい。 【24点】

- a () b () c ()
d () e () f ()
ア 五段活用 イ 上一段活用
ウ 下一段活用 エ 力行変格活用
オ サ行変格活用

問3 次の文節相互の関係をあとから選びなさい。 【18点】

- ① 永松と宮森が不意に訪れた
② 永松と宮森が不意に訪れた
③ 永松と宮森が不意に訪れた
④ 経験の深い加島が参加すると言っている
⑤ 経験の深い加島が参加すると言っている
⑥ 経験の深い加島が参加すると言っている
ある
ある
ある

- ① () ② () ③ ()
④ () ⑤ () ⑥ ()
ア 主述の関係 イ 修飾・被修飾の関係
ウ 並立の関係 エ 補助の関係
オ 接続・被接続の関係 カ 独立の関係

問4 アの技法を漢字で書きなさい。 【3点】

- () ()

基礎力定着テスト特講Ⅱ 7

問 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

ウェイターが席からa立ち去ると、ふと話が途切れた。最初はたまたまぼっかり空いただけの沈黙だったが、話を継ぐタイミングを逃しているうちに、A少しずつ静けさが重くなってcきた。僕の向かいに座った和美が、なにか言いたげな顔のため息をついた。僕の隣の父も、痰のからんだような咳を、思いたしたように繰り返す。斜め前の美奈子まで大人三人のぎこちなさを察したのか、水①の入ったグラスをぼんやりと見つめる。

和美は水を一口飲んだ。顔を上げ、「あのね、美奈子……。」と声をかけた。

「美奈子ちゃん、東京に帰りとうないか？」声をねじ込んだのは、父だった。

「え？」——声をあげたのは美奈子一人だったが、僕と和美も驚いて父を見た。

「もう周防にも飽きたじやろう。」

美奈子はd困惑して、なにも言えない。口があらわあわと動いた②のは、無

理して笑おうとしたのかもしれない。父はそんな美奈子を、目を細めて見つめる。問いただしているのではなかった。微笑んでいた。優しいーほんとうに、いままでe見たことがないほど優しい顔をしていた。

美奈子は、父からf逃げるように目をそらした。うつむいて、肩をすぼ

めて、瞬き③の回数がB急に増えた。

問1 a～fの動詞の活用の種類をあとから選びなさい。 【24点】

a () (b) () (c) ()
d () (e) () (f) ()

ア 五段活用 イ 上一段活用
ウ 下一段活用 エ 力行変格活用
オ サ行変格活用

問2 次の文節相互の関係をあとから選びなさい。 【12点】

- ① 僕と 和美も 驚いて 父を見た
② 僕と 和美も 驚いて 父を見た
③ 僕と 和美も 驚いて 父を見た
④ 僕と 和美も 驚いて 父を見た

ア 主述の関係 イ 修飾・被修飾の関係
ウ 並立の関係 エ 補助の関係
オ 接続・被接続の関係 カ 独立の関係

問3 ①～③と同じ種類の「の」をあとから選びなさい。 【12点】

- ① () (2) () (3) ()

ア 君の話_を聞こう
イ 彼の言_{った}ことを信じる
ウ その本は弟_のだ
エ どうしてわ_かつてくれない_の

問4 A Bの心情にもっとも近いものをあとから選びなさい。 【12点】

A () (B) ()

ア 楽観 イ 緊迫
ウ 困惑 エ 安心

基礎力定着テスト特講Ⅱ 8

問 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

「愛」という言葉には、①人のところを暖かく包むような幸せなイメージがあるようだ。1、愛することは、時として辛く a 切ないこと^アでもある。

「愛」について考えるたびに、私は若いころに読んだ西欧の作家の、こんな言葉を思い出さずにはいられない。

「人は b なぜ去ってゆくもののみを愛するのだろうか」

ちよつと意外にも思われる言葉だが、②よく噛みしめてみると、すこしずつ重い真実がこころに伝わ^イてくるところがある。

私たちは平和を愛する。1、本当に切実に平和を願うのは、それが失われようとしている時か、戦乱のさなかにおいて^エではなからうか。万葉の歌人が春をうたうのは、やがて過ぎ去る短い季節の実感からではあるまいか。永遠にそばにしてくれる異性を、私たちはいつまでも激しく恋^エう^エだろうか。命の^オ短^カさを実感すればこそ、「恋しい人」と呼びかけるのかもしれない。

人間は勝手なものだ。③やがて離れていくもの、たちまち去っていくもの、

そういうものに心惹かれ、情熱を注ぐ。

若さも、^カ美^ミも、^クう^ウつろいやすいものだからこそ、深くそれにこだわる。そう考えてみると、「愛」というどこか甘ったるい言葉が、一転して、切ない^キ祈^イりの営みのように^ク重^オく感^カじられてくるのだ。

問 1 ①～③を文節に区切りなさい。【15点】

- ① 人のところを暖かく包むような
- ② よく噛みしめてみると
- ③ やがて離れていくもの

問 2 a、c の修飾する語を一文節で抜き出さない。【15点】

a () (b) ()
c () ()

問 3 空欄 1 に当てはまる語をあとから選びなさい。【4点】

い。 () ()
ア しかし イ たとえば
ウ つまり エ そのうえ

問 4 ア、エ、オ、クのうち、異なるものを一つずつ選びなさい。また、それぞれの品詞名を書きなさい。【16点】

ア、エ () () () ()
オ、ク () () () ()
詞 () () () ()

問 5 次の(A)(B)に入る最も適切なことばを、文中からそれぞれ漢字二字で抜き出さない。

A () (B) () 【10点】

心惹かれるものが、(A)なものではなく、去っていくものだ^と(B)した時に、はじめて愛の重さがわかるのだと思ひました。

基礎力定着テスト特講Ⅱ 9

問 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

日本はすみずみまで①美しいところである。四季折々の色彩が流れ、②風景が微妙に変化する。変化のその^アあわいが、人の精神にも^イ深い影響を^アおよぼす。精神はその時々^ウにリズムミカルに変わって^ビいき、それが^ウ人に生きる^エ喜びを③与えてくれるのだ。

山も海もさることながら、この国で最も^オ美しいのは農地だ。雪に^カ柔らかに覆われていた大地が、時の流れとともに、少しずつぬれた黒い肌をひろげていく。よく晴れた日など、ぬくまった地面から^キ白く細い糸のような湯気が立つ。土の中では、微生物の働きが活発になる。その土は掘り返され、空気の通りがよくなって、^ク新しい季節への息吹が^クようやくはじまるのだ。

もともとは山から湧きだした水が、水路を流れて流れ下り、鈴のような澄んだ音を立てて田んぼに導かれてくる。風景は一瞬にして変わるのだ。水によって生命が吹き込まれる。この季節、私たちの大地は①の星になるのである。桜も散り、ようやく緑に染まった山に、山桜のピンクが^ド淡く散っている。そんな山が①に映り、野には確かに^エ華やかになってくるので^フある。

問 1 ①③を文節に区切りなさい。 【15点】

① 美しいところである

② 風景が微妙に変化する

③ 与えてくれるのだ

問 2 アゝエ、オゝクのうち、異なるものを一つずつ選びなさい。また、それぞれの品詞名を書きなさい。 【16点】

アゝエ	(((詞
オゝク	(((詞

問 3 aゝfの活用形をあとから選びなさい。 【24点】

a	((b	(c	(
d	((e	(f	(
ア	未然形	イ	連用形	ウ	終止形
エ	連体形	オ	仮定形	カ	命令形

問 4 空欄 1 に当てはまる語を文中から漢字一字で抜き出しなさい。 【5点】

() ()

基礎力定着テスト特講Ⅱ 10

問 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

「よその家に電気が灯いたら、帰っておいで」
「タゴはんの①茶わんを並べる音がしたら、サヨナラするんだよ」

祖母は飛び出す孫の背に、②そう呼びかけた。

③遊び疲れて戻ると、みかん箱に、端切れで作ったお手玉や、人形の着物や、ア小さな布団一式がa縫い上げられて入ってbいる。私がイきれいな小石、金色や銀色の飴の包み紙、まんまるに使ったろう、石や短いクレヨンなどをウ大切にしまひこんでいたように、祖母もまた、残り毛糸や端切れ、空箱や包装紙を後生エ大事に持っていた。

ふり返ってみる 1 たちと祖母の世界は、美しくc重なり合っていオた。幼い者と老人は、何の変哲もカないものを活かし、それに別の命をd吹きこむ達人のようにd思う。一方はとらわれない創造力で、一方は豊かな知恵で……。人生の役回りが社会的にはまだ決まってeいッない幼い子と、人としての役回りを社会的にほぼ終えた老人の、明日の時間を神に任せた者同士の暮らしのテンポは、どこかで美しく調和していた。そして、祖母と私とが重ねた無為の時間は、互いの心の一番柔らかな部分にf響き合う豊かな時間でもあった。

問 1 ①③を文節に区切りなさい。 【15点】

- ① 茶わんを並べる音がしたら
- ② そう呼びかけた
- ③ 遊び疲れて戻ると

問 2 アゝエ、オゝクのうち、異なるものを一つずつ選びなさい。また、それぞれの品詞名を書きなさい。 【16点】

アゝエ () () () () 詞

オゝク () () () () 詞

問 3 aゝfの活用形をあとから選びなさい。 【24点】

a ()	(b)	(c)	()
d ()	(e)	(f)	()
ア 未然形	イ 連用形	ウ 終止形	
エ 連体形	オ 仮定形	カ 命令形	

問 4 空欄 1 に当てはまる語を文中から漢字一字で抜き出しなさい。 【5点】

() ()

基礎力定着テスト特講Ⅱ 11

問 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

舗装道路が、風景を①大きく変えている。私が子どもの頃と、大きく変わったのは、道路にぬかるみが②なくなったことである。どんな道路もぴかぴかで、泥など見¹たくもないという執念を感じ²させるほどだ。

いたるところにあったぬかるみが、今では懐かしくすらある。③路面は空を映した。晴天がつづけば乾いて土ぼこりが立つ。雨がa降れば水溜まりができた。道路は子どもの遊び場でもあったから、天候によって遊び方は変わった。どこからどうやって飛んでbきたのか、街の真中の水溜まりの水面をアメンボが気持ちよさ。そうに走り、水中にはゲンゴロウが一生懸命泳いでcいたりしたものだ。そんな水と接するのも楽しかった⁴。

冬は水溜まりが凍った。白い薄氷をかかとで踏んで割っていくのも、登校途中の楽しみ⁵だった。靴底でスケートの真似事もできた。どうしてもd割れない氷を、意地になって石でe割ったこともあった。登校時にはコンクリートのように固まっていた氷も、昼頃になると、さすがに堪え性もなくなって溶けてくる。道端の柔らかい土には霜柱もできた。獣の歯の。ように盛り上がった霜柱はア透明な鋭い美しさをたたえていた。これを踏み潰すとザクツと悲鳴のイような音がfして靴がもぐった。ウ大きな霜柱は食べ⁷られた。

問 1 ① ② ③を単語に区切りなさい。

【12点】

- ① 大きく変えている
- ② なくなったことである
- ③ 路面は空を映した

問 2 1～7の助動詞の意味をあとから一つずつ選びなさい。 【21点】

1 (2 (
3 (4 (
5 (6 (
7 (
ア 伝聞	イ 様態	ウ 受身	
エ 可能	オ 過去	カ 断定	
キ 希望	ク 使役	ケ 例示	
コ たとえ			

問 3 a～fの動詞の活用の種類をあとから選びなさい。 【18点】

a (b (c (
d (e (f (
ア 五段活用	イ 上一段活用		
ウ 下一段活用	エ 力行変格活用		
オ サ行変格活用			

問 4 ア～ウの品詞名をそれぞれ書きなさい。

【9点】

ア (イ (
ウ (

基礎力定着テスト特講Ⅱ 12

問 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

腑のぬけたる仁に海老を①ふるまひけるが、A赤きを見て、「これは、生れつきか、また朱にてぬりたる物か」と問ふ。「生得は色が青けれど、釜にて煎りて赤うなる」といふを合点②しぬけり。ある侍の馬にのりたる先へ、二間まなか柄¹の朱鍵二十本ばかり持ちたる中間ども²の走るを見、手をa打つて、「さても世は広し。奇特なる事や」と感ずる。「なにをそなたは感ずるや」とb問ひたれば、「その事よ。いまの鍵の柄³の色は、火をたいてむいた③ものぢやが、あれ程ながい鍋がようあつた事や」と。

(注) 腑のぬけたる仁——まのぬけた人 ふるまひけるが——「ごちそうしたが

生得——生まれつきの性質 釜——鍋の一種 煎りて——煮詰めて

二間(にけん) まなか柄の朱鍵——約四・五メートルの赤色の柄のやり
中間(ちゅうげん)——家来 奇特なる事——めったにない珍しいこと

問1 ①～③を現代仮名遣いに直しなさい。

【15点】

- ① () (2) ()
③ () ()

問2 Aのあとに省略されている語を文中から一語で抜き出さない。

() () 【5点】

問3 a bは、誰の動作を表現していますか、

ア エから選びなさい。 【10点】

- ア まのぬけた人
イ 海老をごちそうした人
ウ 馬に乗った侍
エ 家来たち

a () b ()

問4 1～3のうち一つだけ異なるものはどれか。

() () 【5点】

問5 この文章を大きく二つに分けると後半はどこからか。後半の始めの三字を抜き出さない。

() () 【5点】

問6 この文章のおもしろさについて説明した次の文の①②にあてはまる部分を本文中から、①は十字、②は十五字で抜き出さない。

【20点】

- ① () ()
② () ()

まのぬけた人が、はじめは青かった海老が「①」という話を聞いて、柄が赤い鍵を見た時に、珍しいことだと早合点し、「②」と感心したこと。

問 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

田真、田広、田慶、この三人は兄弟なり。親
 におくれて後、親¹の財宝を三つに分けて取れ
 るが、庭前に紫荊樹とて、枝葉①榮へ、花も咲
 き乱れたる木一本あり。Aこれを三つに分け
 て取るべしとて、夜もすがら三人詮議しけるが、
 夜²のすでにa明ければ、木を切らんとて、
 木³のもとへ至りければ、昨日まで榮へたる木
 が、②にはかに枯れたり。ア田真Bこれを見て、
 草木心ありて、切り分かたと③言へるをb聞
 いて、枯れたり。まことに人として、これをわ
 きまへざるべしやとて、分かたずして置きたれ
 ば、また再びもとのごとく榮へたるとなり。

（「御伽草子」より）

（注） おくれて……先立たれて 紫荊樹
 ……マメ科の落葉樹
 夜もすがら……一晩中 詮議
 ……皆で相談すること
 わきまへざる……理解しない もと
 の「とく……もとのように」

問 1 ①～③を現代仮名遣いに直しなさい。

【15点】

- ① () ② ()
 ③ ()

問 2 A Bはともに「紫荊樹」だが、どう違う
 か。三字ずつ入れなさい。 【10点】

・Aは () 木だが、Bは ()
 木である。

問 3 a bの主語にあたるものを、あとから選
 ばさい。 【10点】

- ア 三人 イ 紫荊樹 ウ 夜 エ 田真
 a () b ()

問 4 1～3のうち一つだけ異なるものはどれか。
 【5点】

問 5 田真の会話文はどこからどこまでか。始め
 と終わりの三字ずつを抜き出しなさい。

【10点】

() () ()

問 6 この文章に合うものをあとから一つ選
 ばさい。 【5点】

- 1 兄弟は、親に先立たれたのち、木を三つ
 に切り分けた。
- 2 兄弟は、親に先立たれたので、自分たち
 で草木の世話をした。
- 3 兄弟は、草木にも心があることがわかり、
 切るのをやめた。
- 4 兄弟は、草木が突然枯れた理由がわから
 なかった。

問 7 御伽草子が書かれた時代を選びなさい。

【5点】

- ア 奈良時代 イ 平安時代
 ウ 鎌倉時代 エ 室町時代 ()

基礎力定着テスト特講Ⅱ 14

問 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

ある人、①ゑのこをいと、②いたはりけるにや、その主人、ほかより帰りし時、かのゑのこ、その膝に上り、胸に手を上げ、口の辺をaねぶりまはる。これによつて、主人愛する事、いやましなり。

馬、このよしを見てAうらやましくや思ひけん、「あつぱれ、我も③かやうにこそしはべらめ」と思ひ定めて、ある時、主人、外より帰りける時、馬、主人¹の胸に飛びかかり、顔をねぶり、尾を振りなどしければ、主人、これを見て④はなはだ怒りをなして、棒をおつ取りて、もと²の馬屋にb押し入れける。そのごとく、人³の親疎をわきまへず、B我が方より馳走顔こそ、はなはだもつてをかしき事なれ。 ゑのこ……犬

問 1 ①～③を現代仮名遣いに直しなさい。

【15点】

- ① () ② () ③ ()

問 2 a bの主語にあたるものを、あとから選びなさい。 【10点】

ア ゑのこ イ 人 ウ 馬 エ 主人

- a () b () ()

問 3 1～3のうち一つだけ異なるものはどれか。

() 【5点】

問 4 ④の理由として正しいものをあとから選びなさい。 () 【5点】

ア 主人が帰ろうとしたのに、馬がいきなり飛びかかって、帰るのを邪魔したから。

イ 主人が子犬を抱き上げていたところに、うらやましく思った馬が飛びかかってきたから。

ウ 馬が自分の立場も考えずに主人に飛びついて、子犬のように振るまったから。

エ 普段は主人に飛びついてくる馬が、子犬をかわいがっている別の人に飛びかかったから。

問 5 A Bから係り結びの助詞と結びの語を抜き出さない。 【20点】

- A () 結び () B () 結び ()

問 6 この文章を大きく二つに分けると後半はどこからか。後半の始めの五字を抜き出さない。

() 【5点】